

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	株式会社 ゆとり	事業所名	看護多機能ホームまべちの風
所在地	(〒 039 - 1101) 青森県八戸市大字尻内町字表河原31-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

① 利用者と家族の意向を把握し状態変化時など、都度相談しながらサービスを提供できている
② 施設を利用しながら自宅での生活を継続できるように支援している。体操やレクリエーションを通して楽しみながら生活機能の維持、回復ができる
③ 看護、医療、介護が連携を図り情報共有することで、利用者が健康で安心できる生活を送ることができる
④ 世間話や笑顔で会話を引き出し生活に潤いを与える介護を提供している

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024年 2月 11日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人 ※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025年 2月 19日	出席人数 (合計)	(10) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	☐ 自事業所職員 (2人) ☐ 市町村職員 (1人) ☐ 地域包括支援センター職員 (1人) ☐ 地域住民の代表者 (1人) ☐ 利用者 (人) ☐ 利用者の家族 (人) ☐ 知見を有する者 (1人) ☐ その他 (人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・住み慣れた自宅で生活できるようにしながら家族の都合や本人の希望に合わせたサービスが出来るように実践し継続していく ・看護多機能サービスの特徴を地域住民に伝える活動をする ・医療ニーズの高い利用者の在宅生活を支援する ・zoom 等を活用し法人外のセミナーなどに参加できる機会を増やす ・介護・看護・介護支援専門員との情報の共有をして自立支援を促すことができる ・ハラスメントに関する講習を実施し職場環境の改善につなげる ・事業運営の安全管理等のマニュアル作成と見直しをする (各種防災マニュアルの更新) ・求人は続ける	・家族の要望や本人の状態を踏まえてサービスを柔軟に組み合わせるようにした。 ・経管栄養の方や医療的処置が必要な方の受け入れを進めた ・zoom 研修を活用し全職員に外部研修を受けてもらうよう計画した - ハラスメントに関する講習を受け職員に周知した。ハラスメントに関する相談窓口を再度周知し確認した ・安全管理のマニュアルを作成、更新した ・求人は続けている	・家族の生活スタイルに合わせて帰宅時間を遅くしたり泊まりを利用する等の柔軟な対応をすることができた ・現状、重度者の受け入れには設備的にも不安がある ・外部研修は計画的に進めることができた ・職員の求人はもっと積極的にアピールしていかないと集まらない。職業安定所の募集だけでは難しい
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・家族の意向を反映したサービス内容に基づき提供する ・本人、家族の持っている力を活用して自立を促すことができる	・家族の意向を聞き入れ送迎時間や宿泊などを変更している ・本人ができる事を職員が理解し手伝ってもらえるところは手伝ってもらい自立

		・コミュニケーション能力を高める ・看護・介護・介護支援専門員との連携を密にする	を促すようにしている ・朝礼や月1回のミーティングで看護・介護・介護支援専門員が話し合いをできる場を設けている	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・救急連絡シートを作成し、主治医や家族と迅速に相談、情報共有できるようにする ・主治医との連携を図る ・緊急時の対応を利用者家族や職員と共有する	・救急連絡シートを作成し随時更新している ・緊急時対応マニュアルを作成し随時更新している	・救急連絡シートをじっさいにかつようすることができた ・緊急時の対応をマニュアル化し職員に周知した
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・看護多機能サービスの特徴、特色を地域住民にも伝える ・顔が見える関係作りに取り組む ・痰吸引が出来るように痰の吸引研修に参加する ・人工呼吸器の利用者を受け入れるための施設整備を検討していく	・事業所の周知のためにホームページを作成している ・喀痰吸引に必要な事業所登録は済んでいるが職員の研修は進んでいない	・現在、自社ホームページを作成中。対外的な情報発信に努めている

Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	・だれでも理解できる目標評価表を作成して全員で取り組むようにする ・看取りを希望する家族がいれば、訪問看護と医療と介護が連携して、利用者、家族を支援していく	・看護、医療、介護が連携し家族の希望に沿う看取りを行うことができた	・誰でも安心して地域で生活するためには看護小規模多機能型居宅介護の役割を果たす為、介護・医療面の知識や技術の向上が必要である
-------------------------	---	---	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・人材を確保するのが難しくなっている。一人で複数の委員会を担当している現状が心配される ・外部研修や勉強会など積極的に取り組んでいると感じた ・事故やヒヤリハットがあったときの対応が職員同士対策の話し合いができているという声があった	・人材確保の為、ハローワークだけでなくシルバー人材センターや外国人就労受け入れについて再度検討する ・事業所としての活動を対外的にアピールしていく
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・終末期を迎えた利用者に専門的なケアを実施することができた ・利用者の体調や家族の都合に合わせたサービスの提供をすることができた	・看取りに対する講習の定期的な開催と看取りに立ち会った職員へのメンタルケアを実施していく ・利用者、家族の生活スタイルに合ったサービスの提供を継続し実施する

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・運営推進会議を通じて様々な立場の方と意見交換することができているのが、利用する側からすれば安心できるという声がありました	・緊急時の対応について、事例別で多様なシチュエーションを想定し手順を確認する ・協力できる医療機関、他の事業所等を確認する
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	・地域の方々にもっとまべちの風のことを知ってもらうためにホームページを立ち上げ、事業所の活動内容を発信していけるように進めている	・早急に自社のホームページを完成させ、事業所の活動内容を対外に発信していく
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・利用者ごとの個別の計画目標を立て職員全員に周知して取り組むようにしている	・分かりやすい目標評価表を作成して全員が内容を理解し目標に向かって実践できるようにする

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	4	9	2			✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「およそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	4	10	1			✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	6	1	1		✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画な

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		評価する時期や人物が明確でないと感じる 個別の研修計画を立てている					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	7	6	1	1		✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 外部研修も増えてきていた					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	5	10				✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 職員会議を毎月開催している 連絡事項は日誌に記入している					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	3	10	1	1		✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 開催後の報告は役所にはしているが従業員に報告されてないと思う					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	7	7	1			✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		【具体的な状況・取組内容】 急な勤務変更にも快く応じており全員が同じ姿勢で対応、協力できていた					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	1 2	2			✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 変更や更新事項は申し送り簿や口頭での伝達、メモをつけるなど基本的な対応だった。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	9	2			✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 事故やヒヤリハットがあったときは職員で対策を話し合っている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	5	7	3		災害時の非常食について期限があるものは気づかないうちに使えなくなっていることがあるためローリングストックを取り入れてみてはどうか	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況	4	9	2			✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮ら

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている						し全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	2	1 2	1			✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目	5	9	1			✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	標の達成に向けた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 決まった家族との関りしかない為、その他の家族の意向や考えを知らず後聞きしてしまうことが多かった					用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	3	1 1	1			✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	8	4			✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護からの情報が得られているか確認できていない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 測などを踏まえて計画を作成する ことが重要です
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	11	2			✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 毎月カンファレンス用紙に利用者の身体の状態や変化を記入しミーティングでケアマネ、看護を交えて情報共有し、はなしあいを行い、助言をいただいている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	4	9	2			✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		[具体的な状況・取組内容] 週に一回は帰宅するがほぼ毎日通いと泊まりを利用している利用者がある利用者、家族の意向を反映している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	1	14				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 受診の際、職員が同行する場合は利用者の身体的な変化や状態を主治医に報告している。受診内容は家族、看護、ケアマネとも情報共有できている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	10	1			✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の体調の変化があった時はすぐに看護へ報告し対応している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	4	9	2			✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 情報共有はできていたが対応策の話し合いまで至らなかった					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	2	9	1			✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容] 朝の申し送り時に行っている					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	10	1			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者、家族からの質問には都度分かりやすい説明を心掛けている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	1 2	1			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ケアマネ、看護、介護、福祉用具の業者を交え、それぞれの観点から説明し、利用者、家族からの理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		1 5				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 必要なケアの提供や処置について家族に分かりやすく説明している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	5	9	1			✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 気持ちの変化、身体の変化、環境の変化に 応じ、利用者本人、家族の希望や意向を 聞き、ケアマネと相談しながらサービスの 提供に反映している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	1	12	2			✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 利用者、家族と相談しながら通い、宿泊 の利用を検討している					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	2	11	2			✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 深大性から努力呼吸移行後の呼吸状態や 痰がらみ等の症状にとどまっていた家族 様に対して経過の説明や寄り添いの言葉					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		がけ、その記録ができた					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	4	10	1			✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 病院からの情報を共有し、利用者、家族に分かりやすく説明して安心して在宅生活ができるように努めている。					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有できている	3	7	5			✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 状態が安定して受診が家族対応の利用者については緊急時の対応を事前に主治医に確認できていない 訪看のあるなしや体調の良し悪しによっ					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		て介入がおろそかになり利用者一人一人 の情報把握ができていなかった					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	10	4		緊急時の対応について、様々なシチュエーションを想定して事例別での手順を確認するのはどうか	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 救急連絡シートを作成し、主治医や家族と迅速に相談、情報共有できるように備えている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えら	3	11		1	病院勤めの方や栄養士の方など様々な業種から意見交換が	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォー

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	れる包括的なサポートにつ いて、民生委員・地域包括支 援センター・市区町村職員等 への情報提供や提案が行わ れている	【具体的な状況・取組内容】 運営推進会議での意見、介護に関する要 望を議事録に残している。				されている	マルサポート等を含めたケアの提 供について、多職種とともに検 討・支援を行っていくなどの取組」 の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがな い場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や 町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録につ いて、誰でも見ることができ るような方法での情報発信が、 迅速に行われている		9	5	1		✓ 「誰でも見ることができる方法で の情報発信」と「迅速な情報発信」 の2つの視点から、充足度を評価 します
		【具体的な状況・取組内容】 誰でも見ることができ る発信はしていな いように思う。					
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等について、	1	5	3	5		✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 地域に対しての啓発活動はできていない					✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	1	10	3	1		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、【具体的な状況・取組内容】欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要	2	6	6	1		✓ 「積極的な受け入れ」について、

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 ・コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている						充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	4	5	4		✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	10	1	1	実際に看取りに立ち会う機会は少ないと思うが看取りの受容研修の他、対応した職員に対するアフターフォローも大切だと思う	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	1	10	3	1		✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	10		1		✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象とし

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 ている場合は「全くできていない」
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	7	4	3		✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 2か月に1回行われている地域推進会議で集まっていたいただいた地域の関係者たちと話し合いがもたれている。					
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや	1	5	8	1	昔と比べインターホンが普及し各家庭の防犯意識が高まった	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	向上のための具体的な取組 等が行われている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 近隣住民の方たちとの取り組みなどはない が利用者の家族とは電話や送迎時などで 介護の疑問を出してもらったり、そのことを 管理者、ケアマネの伝え解決策へ結びつく ようにしたりと取り組みが出来ている				ことでご近所との付き合いや かかわり方が難しくなっている ように感じる	組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 分かりやすい目標評価表を作成して全員で取り組むようにしている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られ	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医との連携や受診の付き添いで在宅での状況を伝えている。		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看取りを希望する家族がいれば医療、看護、介護が連携して利用者、家族を支援できるようにしている。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」